

中日対訳小説に見る使役形と恩恵の関係

The Relations between the Causative Constructions and the Benefit in Chinese-Japanese Translational Novel

加藤 晴子
KATO Haruko

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Institute of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

はじめに

1. 先行研究

- 1.1. 中日使役表現の違い
- 1.2. 使役表現と恩恵との関係

2. 資料

- 2.1. 利用コーパス
- 2.2. 本稿で扱う使役形
- 2.3. データの全体

3. 恩恵の意味を含む使役形

- 3.1. X（使役者）が与益者，Y（動作者）が受益者の例
- 3.2. Y（動作者）が受益者のときの日本語訳文
- 3.3. Y（動作者）が与益者，X（使役者）が受益者の例
- 3.4. Y（動作者）が与益者でかつ一人称である例

4. その他の意味を含む使役形

- 4.1. 損害の意味を含む例
- 4.2. Yを何らかの状態におくことを表す例
- 4.3. X（使役者）とY（動作者）が同一と思われる例

まとめ

キーワード：使役形，“叫、让”，「サセル」，恩恵，対訳小説

Keywords：causative constructions, "jiao, rang", "saseru", benefit, translated novel



【要旨】

同じくヴォイスに関連しながら、受動表現については視点との関りが常に取りあげられるが、使役表現については視点との関りに言及されることはほとんどない。しかし日本語の「サセル」と「テモラウ」につながりのあることは周知の事実であり、また、早津の一連の論述が日本語の使役文の中に恩恵を含むものがあることを指摘するなど、使役表現と視点との関係も予想することができる。

本稿では、中国語の使役表現について、視点との関連を述べる前段階として、早津の一連の論述が日本語の使役表現に認めたような、恩恵の意味を含む使役表現の有無を中国語小説において確認し、あわせて日本語への翻訳の傾向も見えていくことにする。

Both passive expression and causative expression are related to voice, but the relationship between passive expression and viewpoint is often referred to, while the relation between causative expression and viewpoint is rarely mentioned. On the other hand, as many people have stated, there is a connection between Japanese "saseru" and "temorau". Hayatsu also points out that some Japanese causative sentences include the meaning of benefits. From these things, it is possible to predict the relationship between causative expression and viewpoint. In this paper, in order to consider the relationship with viewpoint of Chinese causative expression, first, we searched for the causative expressions that include the meaning of benefits in Chinese novel, and then, analyze the trends of Japanese translation of those expressions.

はじめに

同じくヴォイスに関連しながら、受動表現については視点との関りが常に取りあげられるが、使役表現については視点との関りに言及されることはほとんどない。しかし日本語の「サセル」と「テモラウ」につながりのあることは周知の事実であり、また、早津の一連の論述が日本語の使役文の中に恩恵の意味を含むものがあることを指摘するなど、使役表現と視点との関係も予想することができる。

本稿では、中国語の使役表現について、視点との関連を述べる前段階として、早津の一連の論述が日本語の使役表現に認めたような、恩恵の意味を含む使役表現の有無を中国語小説において確認し、あわせて日本語への翻訳の傾向も見えていくことにする。

1. 先行研究

日本語についても中国語についても、使役表現に関する先行研究は膨大な蓄積があり、ここ

ですべてに触れることはできない。中日使役表現の違いに関する研究と、使役表現と恩恵の意味との関係に関する研究の一部を挙げるに留める。ヴォイスの捉え方や使役の本質に関わる議論、使役表現の言語体系内での位置づけ、使役表現の構造上または意味上の分類およびその研究者による異同、“叫”“让”“使”などの差異やそれぞれの由来などには立ち入らない。

1.1. 中日使役表現の違い

多くの先行研究の中から、以下 3 編のみ挙げる。これらから、中国語の“叫/让”を使った文がいつも日本語の「サセル」に対応するのではないことがわかる。

1.1.1 楊凱栄 1989

楊凱栄 1989 では、中国語で「叫、讓」が使えても日本語で「させる」が使えない場合として、以下を挙げている。(楊凱栄 1989: 62,65,67,85-89²⁾)

X の働きかけが完了したのに、Y の動作や作用・状態変化が実現されない場合。

太郎叫花子来，可是花子没来。

*太郎が花子に來させたが、花子は來なかつた。

太郎が花子に來させようとしたが、花子は來なかつた。

X が Y に対し、あることをしないように働きかける場合。

别去了，你爸爸不是说，叫你别去了吗？

もう行くなよ。お父さんが行かないように言ったじゃない。

X が何らかの働きかけをして、Y に「～できない」という状態を生じさせる場合。

我把他的书藏起来，让他学习不了。

私は本を隠して、彼が勉強できないようにする。

動詞がいわゆる「所動詞」や動詞の可能態などである場合。

让他有参加比赛的机会。

彼に試合に参加する機会があるようにする。

我故意大声说话让他听见。

彼に聞えるように、わざと大きな声で言ったんだ。

1.1.2 三宅 2013

三宅 2013 でも、中国語と日本語の使役の違いについて、「中国語の兼語文を用いて表された使役構文は、使役者から被使役者への働きかけはあっても、被使役者が必ずしもその受けた働きかけに従い行為を行ったとは限らない。その場合は対応する日本語としては「X は Y に～さ

せた」ではなく「XはYに～するように言った」と訳さないと意味が対応しないことが多い(三宅 2013:97)と述べている。

1.1.3 竹島 2012

竹島 2012 は、中国語教育の観点から、教材や検定試験の問題等に使われている使役表現をデータとし、内省により日本語訳のバリエーションを示している。中国語の使役表現に対応する日本語表現には、「～させる」以外に以下のものがあるとする(竹島 2012:88-97 日本語訳も)。

「～ように言う」

老师让我们背课文，我忘了背。

先生は私たちに本文を暗誦するように言ったが、私は暗誦するのを忘れた。

「～させてくれる」

吃年夜饭的时候，红红的爸爸还让我们多吃鱼，(後略)

除夜の晩御飯を食べる時、紅紅のお父さんは私たちに魚をたくさん食べさせてくれた。

「～させてもらう」

他叫我多喝酒。

私は彼から酒をたくさん飲ませてもらう。

「～してもらう」

我让妈妈给你做中国菜。

私は母に頼んであなたに中国料理を作ってもらおう。

「～していただく」

我请老师再说一遍。

私は先生にもう一度話していただく。

能動文

这句话让华美非常高兴。

この言葉を聞いて、華美はとても喜んだ。

受身表現

老师让我告诉你。

私は先生からあなたに伝えるように言われた。

1.2. 使役表現と恩恵との関係

1.2.1 楊凱栄 1989

使役表現と授受表現との関係について、まず楊凱栄 1989 の論述をあげる。

楊凱栄 1989 は、「受給表現」の中でも、「～てもらう」には、「～てやる」「～てくれる」と異なり、利益を受ける人から利益を与える人への働きかけを読み取ることができ、その意味で「させる」による使役表現と似ているとしている。「～てもらう」は一方では利益の授受関係を表し、他方では使役の役割をも担っていると述べている。(楊凱栄 1989:188)

また、日本語との対応の違いとして、日本語の「～てもらう」は他人から自分に対する働きかけの時は用いられないが、対応する中国語の使役兼語式“请”は、XからYへの働きかけがあれば、Yが第一人称であってもさしつかえなく、日本語の「～てもらう」は他の授受動詞と同様に、視点の制約を受けるが、中国語の“请”にはこのような制約はないことも指摘している。(楊凱栄 1989:194)

1.2.2 木村 2000, 佐々木 2002, 木村・楊 2008

木村 2000 は、“叫”“让”“使”“被”“把”を使った5つの構文をそれぞれ「指示使役文」「放任使役文」「誘発使役文」「受影文」「執行使役文」と名づけ、これらの相関と対立の関係を特徴づけることで、中国語におけるヴォイス・カテゴリの構造化の概念を、中国語諸方言への目配りとともに明らかにした。

佐々木 2002 は、北京語³⁾の使役を指示使役、放任使役、誘発使役に分け、さらにもう1つ、受益表現に使われる“给”を使った以下のようなものを授与使役としている。

他给我看照片。(彼は僕に写真を見せてくれた.)

我给你吃。(君にたべさせてあげる.)

その上で、北京語では“给”が授与使役以外の使役には使われないが、福州語や寧波語の対応語は、授与使役以外の使役にも使われる(ただし福州語では否定形のみなど一部制約がある)ことを取り上げ、使役と受益との構文的なつながりを述べている。

木村・楊 2008 は木村 2000 を踏まえ、北京語や上海語について香港粵語などを参考に、授与と受動および使役のつながりについて述べている。その中で、北京語の例として以下のような“给”を使った例を挙げ、これらは「介助使役(授与行為に支えられた介助的な使役的状况)」を表すとしている。

小红给小王喝水。(シャオホンは王君にお湯を飲ませてやった)

小红给小王看照片。(シャオホンは王君に写真を見(さ)せてやった)

1.2.3 早津 2016, 2017, 2019

使役表現と授受表現との関係については、早津の一連の記述がある。

早津 2016 は、従来行われてきた「強制」と「許可」の2分類とは異なる観点から、使役文を「つかいだて」と「みちびき」の2つに分類する(早津 2016:85)。

「強制」と「許可」は、使役主体と動作主体のどちらが先に、どちらがより強く動作の実現を望むかという《原因局面/先行局面》に注目するものであるのに対し、「みちびき」と「つかいだて」は、動作の実行が使役主体と動作主体のどちらのためなのかという《結果局面/後続局面》に注目するものであるとする(早津 2016:76-77)。以下、早津 2016:88によれば、(ア)が強制でつかいだて、(イ)が強制でみちびき、(ウ)が許可でつかいだて、(エ)が許可でみちびきである。

(ア) 先生は帰ろうとしている学生をつかまえて大事な花瓶を運ばせた。

(イ) 母親は子供に無理やり牛乳を飲ませた。

(ウ) 学生たちが「ぼくたち気をつけて運びますからぜひお手伝いさせてください」というので大事な花瓶を運ばせることにした。

(エ) 子供が「もっと飲みたい」というので、きょうは好きなだけ牛乳を飲ませた。

その上で、みちびきの使役には「V-テヤル/クレル」文との共通性(主語が恩恵の与え手である)が、つかいだての使役には「V-テモラウ」文との共通性(主語が恩恵の受け手である)が認められるという(早津 2019⁴⁾)。

早津 2017 は2種の使役文と3種の授受文との関係について、以下のように述べている。

「つかいだての使役文は主語がある状態を享受したいという目的や意図をもち、その実現のために他者に動作をさせることを表すので、主語がその恩恵の受け手という性質を含みとしてもちやすい」ので「つかいだての使役文はシテモラウ文と近くなる場合がある」(早津 2017:11)

「一方、みちびきの使役文は、主語からの関与によって補語(=動作主体)が動作を行い、そのことが動作主体自身にとっての恩恵となるという事態である。〔中略〕主語である使役主体はそれを引きおこすという意味において恩恵の与え手ということができる。」(早津 2017:13)「授受文のうち、恩恵の与え手を主語とするのはシテヤル文とシテクレル文である」が、ただし「主語は動作主体でもあるので、その点で使役文とは異なっている。」(早津 2017:13)

早津 2017 のまとめによれば、以下のようになる。

シテヤル文・シテクレル文

動作主体である主語から他者への恩恵を与えることを表す。

シテモラウ文

動作主体ではない主語が話し手以外の他者から恩恵を受けることを表す。

つかいだての使役文

動作主体でない主語が他者（話し手でもよい）から恩恵を受けることを含みとして表す⁵⁾。

みちびきの使役文

動作主体である補語が恩恵を受ける（与えられる）ことを含みとして表す。

さらに、このようなことから「動作を行う動作主体自身が恩恵を受けることは3種の授受文いずれによっても表現できない。みちびきの使役文はそれを補うものとして機能している。また、シテモラウ文にはいわゆる人称制限があり、「私に……V-テモラウ」という文は通常は使われない。つかいだての使役文はそれを補う表現的な機能をはたしている。」としている（早津 2017:14-15）。

2. 資料

2.1. 利用コーパス

本稿で利用した資料は北京日本学研究中心2003「中日対訳コーパス」である。そのうち、今回は、中国語小説とその日本語対訳を利用することにし、ランダムに選択した《丹凤眼》,《家》,《青春之歌》の3編からデータを収集した。以下本稿の引用例中では、日本語訳文末尾の[]内に、それぞれ、「丹」,「家」,「青」の略号と、コーパス中の段落番号を示した⁶⁾。

2.2. 本稿で扱う使役形

楊凱榮 1989 では、使役表現を「X（使役者）が Y（被使役者）になんらかの形で働きかけ、ある動作・作用・状態変化をさせるその働きかけを受けた Y が動作・作用をし、あるいは状態変化を生じる」意味事象と広く捉え、日本語については、「他動詞文」「させる」「～てもらう」「～ようにいう」を、中国語については、「他動詞文」「叫、讓」「使」「使役兼語文」をすべて含めている。これを踏まえ、本稿では、X が Y に対して何らかの働きかけをし、それを受けた Y が何らかの動作をし、あるいは状態変化を起こす事態を表すものを広く「使役表現」と呼び、

その中で“叫/让”が使われ、使役の意味を表すものを「使役形」と呼ぶことにする⁷⁾。模式的に示すと以下ようになる。

X+叫/让+Y+VP (VPには形容詞フレーズも含む。)

X: 主語=使役者

Y: 叫/让の目的語=被使役者=動作者⁸⁾

本稿ではまず、中国語で書かれた小説からこのような使役形の例を収集した。

次に、収集した例について、恩恵の意味が含まれるかどうか、含まれるとすれば誰から誰への恩恵の授受か、与益者と受益者はそれぞれ、X, Y, O (その他)のいずれであるかについて検討した。合わせて対応する日本語の訳文に「サセル」や「テヤル」「テクレル」「テモラウ」が使われているかどうかも見だした。以下では、日本語については「サセル」を「使役形」と呼び、「テヤル」「テクレル」「テモラウ」をまとめて「授受形」と呼ぶ⁹⁾。

本稿では、早津 2017 の論述や例文から、以下のようなものを恩恵の意味を含むものとした¹⁰⁾。

- i つかいだての使役文の場合、「主語がある状態を享受したいという目的や意図をもち、その実現のために他者に動作をさせる」(早津 2017:11) ことが読みとれるもの、すなわち、前後の文脈に、主語 (=使役者) の目的・意図を表す表現が現れるもの。
(早津例) 彼女は {伊勢海老の料理をつくるため} 息子のテアミに……えびをとりに行かせた。(記号も早津 2017 による)
- ii みちびきの使役文の場合、「動作主体にある状態をもたらそうとしてそのための動作を行わせることを表すものなので、動作の性質によっては、その動作をすることが動作主体にとってよいこと (恩恵を受けること) である場合がある。」(早津 2017:11 下線は本稿筆者) ことから、VP 中の動詞自体が、一般的にみて望ましい事態をもたらすと目される動作を表すもの、あるいは、前後の文脈に、動作主体 (=動作者) の願望や嗜好などを表す表現、動作主体の喜び、感謝などが読みとれる表現が現れるもの。
(早津例) 行友は……珍しいもの好きの道雅の喜ぶ洋食をわざわざ遠くからとって食べさせたりした。

本稿では早津 2017 に従い、動作者の望まない動作を無理やり行わせるような場合は、たとえ使役者が自分のために行わせる場合でなくとも、恩恵の意味を含むものとはしなかった¹¹⁾。

2.3. データの全体

今回収集したデータの全体を表1に示しておく¹²⁾。

表1

日本語訳文	含まれる意味				計
	強制・許可	恩恵	損害 (→4.1)	状態 (→4.2)	
使役形 (うち授受形 ¹³⁾)	79 (6)	34 (13)	10 (0)	3 (0)	126 (19)
非使役形 (うち授受形)	183 (15)	51 (26)	21 (1)	31 (0)	286 (42)
計 (うち授受形)	262 (21)	85 (39)	31 (1)	34 (0)	412 (61)
(%)	(8.0%)	(45.9%)	(3.2%)	(0.0%)	(14.8%)

表1からは、日本語訳文において、恩恵の意味を含む使役形は恩恵の意味を含まない使役形に比べると、授受形を使って訳されているものの割合が高いことが読み取れる。

3. 恩恵の意味を含む使役形

表1に示したうち、恩恵の意味を含む85例について、誰から誰への恩恵の授受か、授受の向き別の内訳を表2に示す¹⁴⁾。

およその傾向として、X(使役者)が与益者、Y(動作者)が受益者のもの(X→Y)とY(動作者)が与益者でX(使役者)が受益者のもの(Y→X)を比べると、後者の方が使役形を使わずに訳されているものの割合が高く(30:30対3:18)、また、授受形で訳されているものの割合も高い(43.3%対0.0%、43.3%対72.2%)ようである。

表2

授受の向き	使役形(うち授受形, %)	非使役形(うち授受形, %)	計
X→Y	30 (13, 43.3%)	30 (13, 43.3%)	60
Y→X	3 (0, 0.0%)	18 (13, 72.2%)	21
その他	1 (0, 0.0%)	3 (0, 0.0%)	4
計	34 (13, 38.2%)	51 (26, 51.0%)	85

以下、恩恵の意味を含む使役形について、与益者・受益者の別によって分けて例を示し、それぞれ日本語訳文と対応させながら見ていく。

3.1. X（使役者）が与益者、Y（動作者）が受益者の例

X（使役者）が与益者、Y（動作者）が受益者である例は、今回のデータには 60 例あった。そのうち日本語訳文に使役形が使われるものが 30 例、使われないものも 30 例、うち授受形が使われるものがどちらも 13 例であった。使役形+授受形の 13 例はすべて「サセテクレル」であった。

a. 使役形が使われるもの

- (1) 妈妈常常这样自己饿着肚子，却尽量让我吃饱。

おかあさんは、いつもこのように、じぶんは空腹を忍んで、できるかぎり、わたしにいっぱいたべさせようとする。[青 4427]

b. 使役形と授受形が使われるもの

- (2) 我只是日日夜夜地盼着你叫我过几天安心的日子。

わたしゃ、ただ、ただ、昼も夜も、おまえがわたしに、心安らかな日を送らせてくれるようにと、それだけを望んでいるんだよ[青 4970]

c. 使役形が使われないもの

- (3) 让她们两个去罢，她们大概有私房话要说。

二人きりにしとくのよ。きっと何か内証のお話があるのよ。[家 1433]

d. 授受形のみが使われるもの

- (4) 这丫头长的怪不错呢。叫她念书吧，

この娘は器量よしですよ。学校にあげてやりましょうよ、[青 71]

(1)は、“吃饱（食べて満腹になる）” が一般的に見て、望ましい事態をもたらす動作であるので恩恵の意味を含んでいると考えられる。(2)は、“过安心的日子（心安らかな日を送る）” が一般的に見て、望ましい事態をもたらす動作であるので恩恵の意味を含んでいると考えられる。(3)は、“大概有私房话要说（きっと何か内証のお話があるのよ）” から話し手の気遣いが読みとれることから、恩恵の意味を含んでいると考えられる。(4)は、“念书（勉強する）” が一般的に見て、望ましい事態をもたらす動作であるので恩恵の意味を含んでいると考えられる。

3.2. Y（動作者）が受益者のときの日本語訳文

ここで、1.2.3 で取り上げた、早津 2017 の記述を振り返る。早津 2017:14 は、「動作を行う動作主体自身が恩恵を受けることは 3 種の授受文いづれによっても表現できない。みちびきの使役文はそれを補うものとして機能している。」としているが、今回のデータに見る日本語訳文では、Y（動作者）が受益者で日本語訳文に授受形が使われるものが 13 例あったことは、これと矛盾するのではないか。そこで、13 例を詳細に分析すると、そのうちの 11 例では、以下ののように、中国語原文と日本語訳文とで、動詞の違いから動作者が交代していることがわかった¹⁵⁾。

中国語原文	日本語訳文
【動作者=Y】	【動作者=原文の X】
过去（通る）	通す[家 87]
将息（休養する）	だまっている[家 462]
念书（勉強する）	学校にあげる[青 71]
知道她的事（知る）	話す[青 150]
高兴高兴（楽しくなる）	気をひきたてる[青 1012]
全阔起来（豊かになる）	金持にする[青 2245]
上学（学校に行く）	学校へあげる[青 2614]
留在这儿（ここに留まる）	ここにおく[青 3394]
暂时住咱们家（家に泊まる）	うちにおく[青 4175]
有机会认识了真理（機会を得る）	機会をあたえる[青 4198]
一道参加（参加する）	一緒に連れていく[青 5733]

1.2.2 の先行研究でも見たように、“叫/让”と“给”の間には、方言間のバリエーションを介して構文的につながりのあることが言われている。中国語では、授受を表す“给”は、使役に似た形式（「授与使役」（佐々木 2002）、「介助使役」（木村・楊 2008））や受身形にも使われることがあり、動作者が受益者である事態は“叫/让/给”のいずれを使っても表し得る。それをどのような日本語に訳すかは、日本語側の問題となると言えそうである。なお、中国語の使役形と授受形および受身形のつながりや重なりと違いについては、佐々木 1997、木村 2000、佐々木 2002、木村 2008、木村・楊 2008 などの先行研究に譲り、ここでは立ち入らないことにする。

3.3. Y（動作者）が与益者、X（使役者）が受益者の例

Y（動作者）が与益者、X（使役者）が受益者である例は、今回のデータには 21 例あった。

そのうち日本語訳文に使役形が使われるものが 3 例、使われないものが 18 例、使役形+授受形のものはなく、使役形が使われないもののうち授受形が使われるものは 13 例であった。

a. 使役形が使われるもの

(5) 一来到这里，他就闲不住，叫我领着他各处蹒跚。

こっちへ来てからも、少しもじっとしておれず、わたしにあちこち、案内させて歩いているんですよ。[青 498]

b. 使役形が使われないもの

(6) 你说没有人安慰你，让我来安慰你。

あなたに誰も慰めてくれる人がないのなら、あたしがお慰めいたしますわ……[家 1553]

c. 授受形のみが使われるもの

(7) 叫夫役给你买点东西回来吃吧。

小使さんに何か買って来てもらうから、[青 2385]

(5)は、“闲不住（じっとしてられない）”から、出歩きたい願望が読みとれることから、恩恵の意味を含んでいると考えられる。(6)は、“安慰（慰める）”が一般的に見て、望ましい事態をもたらす動作であるので恩恵の意味を含んでいると考えられる。(7)は、場面全体が相手をもてなそうとする場面であることから恩恵の意味を含んでいると考えられる。

3.4. Y（動作者）が与益者でかつ一人称である例

ここでもう一度、1.2.3 で取り上げた、早津 2017 の記述を振り返る。早津 2017:14-15 は、「シテモラウ文にはいわゆる人称制限があり、「私に……V-テモラウ」という文は通常は使われない。つかいだての使役文はそれを補う表現的な機能をはたしている。」としている。つまり、「話し手（一人称者）の動作によって他者が利益を受ける事態をその他者を主語にして表すことはでき」（早津 2017:13）ないのである。そこで、今回のデータから、Y（動作者）が与益者でかつ一人称である例を探すと、全体で 6 例あった。例が少ない中で、日本語訳文には、使役形が使われるもの、使われないもの、授受形のみが使われるものの 3 種があった（それぞれ 1 例、5 例、3 例）が、「テモラウ」を使って訳されているものは確かになかった。

a. 使役形が使われるもの

(8) 一来到这里，他就闲不住，叫我领着他各处蹒跚。

こっちへ来てからも、少しもじっとしておれず、わたしにあちこち、案内させて歩いているんですよ。[青 498] = (5)

b. 使役形が使われないもの

(9) 你们太累了，让我来念吧！

きみたちは疲れてるだろう、ぼくが読むよ。[青 565]

c. 授受形のみが使われるもの

(10) 你看，你脸上尽是眼泪，让我给你揩干净。

ほら、涙がいっぱいだ。待っていで、ふいてあげるから。[家 570]

1.2.1 で見た通り、日本語の「～てもらう」は他人から自分に対する働きかけの時は用いられないが、対応する中国語の“请”は X から Y への働きかけがあれば、Y が第一人称であってもさしつかえないことが指摘されている（楊凱榮 1989:194）。“请”を使ったものも中国語の使役表現の一形式である。

（楊凱榮例）学生请我作报告。（学生に報告するように頼まれた。）

中国語で授受を表す“给”には人称制限はないが、「テヤル」「テクレル」に対応する形式しか作れず¹⁶⁾、人称に関わりなく「テモラウ」に対応するのは主に使役形である¹⁷⁾。

4. その他の意味を含む使役形

今回のデータでは、強制・許可の意味を含む使役形、恩恵の意味を含む使役形の他に、損害の意味を含むもの、Y を何らかの状態におくことを表すものが見られた。また、すべての使役形を通じて、X（使役者）と Y（動作者）が同一であるものも見られた。

4.1. 損害の意味を含む例

恩恵の反対の、損害の意味を含むと考えられる例は、今回のデータには 31 例あった。そのうち日本語訳文に使役形が使われるものが 10 例、使われないものが 21 例、使役形＋授受形のものではなく、使役形が使われないものうち授受形が使われるものは 1 例であった。Y（動作者）から X（使役者）への損害の意味を含むものも一部あったが、ここでは、X（使役者）から Y（動作者）への損害の意味を含む例のみを挙げる。

a. 使役形が使われるもの

(11) 让乔奶奶再白受累，咱也不落忍……

喬婆さまにこれ以上骨折り損をさせるのは気の毒だよ……[丹 32]

b. 使役形が使われないもの

(12) 应当拉她一把，而不应该叫她沉沦下去。(沼にはまり込ませる)

手を貸してひっぱりあげてやるべきで、いまのまま、腐らせてしまっただけな
い。[青 1119]

c. 授受形のみが使われるもの

(13) 再看见你冒充学生走进来，叫你屁滚尿流滚出去（慌てふためいて出ていかせる）！

もう一度、学生に化けて構内にもぐりこんで来たら、もっと痛い目にあわせてやる
ぞ、[青 4776]

(11)では X (使役者) は“咱 (俺たち)”，Y (動作者) は“乔奶奶 (喬婆さま)”，(12)では X (使役者) は“咱们 (われわれ)”，Y (動作者) は“她 (かの女)”，(13)では X (使役者) は [一人称 (文中非表示)]，Y (動作者) は [二人称 (文中非表示)] であり、いずれも、X (使役者) から Y (動作者) への損害の意味を含むものと考えられる。

4.2. Y を何らかの状態におくことを表す例

Y を何らかの状態におくことを表す例は、今回のデータには 34 例あった。そのうち日本語訳文に使役形が使われるものが 3 例、使われないものが 31 例、いずれにも授受形が使われるものはなかった。

a. 使役形が使われるもの

(14) 第三件事呢，对郑德富要彻底改变你那阶级立场，不能叫他再恨你。

第三には、鄭徳富に対する階級的立場を、徹底して改めて、二度とふたたび、恨みを抱かせないようにすること。[青 3034]

b. 使役形が使われないもの

(15) 您见了我姑母，就说我在这里会好好地教书的。叫她放心。

おばさんにお会いになったら、こちらで一生懸命教えているからと、伝えてください。安心するようにと……[青 2892]

Y を何らかの状態におくことを表し、X (使役者) が無生物であるものは、日本語ではあまり見られない使役形である。今回の 34 例の中に 20 例あったが、使役形が使われる日本語訳文

は 1 例のみで、その他 19 例はすべて使役形を使わずに訳されている。

a. 使役形が使われるもの

(16) 这个消息叫张太太和琴放了心，

この消息は張太太と琴を安心させ、[家 1437]

b. 使役形が使われないもの

(17) 说吧，孩子，什么事叫你这么为难？（何がおまえをそんなに困らせるのか）

いってごらん、おまえがそんなに困っていることを？[青 2287]

4.3. X（使役者）と Y（動作者）が同一と思われる例

最後に、X（使役者）と Y（動作者）が同一と思われる例を挙げておく。これらも日本語訳文では使役形を使わずに訳されている。

(18) 他希望灯光马上灭掉，让自己完全埋葬在黑暗里面。（自分を暗黒の中に葬らせる）

彼は電灯を消して暗黒の中に葬られたいと願うのだった。[家 1280]

(19) 她反复苦思着，整整想了多半夜，终于让她想到了散发传单的好办法。（かの女に思いつかせる）

何度もくり返し考えたあげく、ほとんどひと晩をついやして、かの女は、うまく名案を考えだした。[青 1942]

(20) 她稍稍叫自己冷静一点，（自分を冷静にさせる）

なるべく冷静を保ちながら、[青 3477]

(18)では X（使役者）は“他（彼）”，Y（動作者）は“自己（自分）”，(19)では X（使役者）も Y（動作者）も“她（かの女）”，(20)では X（使役者）は“她（かの女）”，Y（動作者）は“自己（じぶん）”であり、いずれも、X（使役者）と Y（動作者）が同一の人物を指している。

まとめ

以上、中国語について、恩恵の意味を含むものを中心に、小説から使役形の例を挙げ、日本語の対訳とも合わせて分析を行った。

まず、2.2 で早津 2017 に基づいて立てた基準に合致し、恩恵の意味を含む使役形は中国語にも存在することが確認できた。また、恩恵の意味を含む使役形の日本語訳文について、すべてが「テヤル」「テクレル」「テモラウ」などの授受形を使って訳されるわけではないが、恩恵の

意味を含まない使役形と比較すると授受形が使われる割合が高いことがわかった。

次に、1.2.3 で見た早津 2017 が述べるような、一部の使役形が授受形の持つ制限を、2 つの点で補っているのではないかということについて、1 つめの、動作者が受益者である場合、授受形では表現できないという制限であるが、中国語では、動作者が受益者である事態は、“叫/让/给”のいずれを使っても表し得る、その表現が使役を表すのか授受を表すのかは時に曖昧であり、それをどのような日本語に訳すかは、日本語側の問題となる。また、2 つめの、「テモラウ」の動作者が一人称であってはならないという制限であるが、中国語では、日本語の「テモラウ」に対応するのは主に使役形である。今回のデータの中に、対応する日本語訳文で、「テモラウ」を使って訳されているものは確かになかった。

以上の他、3.2 で見たような、中国語原文と日本語訳文との間の、動詞の違いによる動作者の交代のような現象は、どちらの側から事態を述べるかの視点との関わりから興味深い現象である。今後さらに探求していきたい。

注

- 1) 視点を「視座」（どこから見るか）と「注視点」（どこを見るか）とに分ける考え方もあるが、本稿では「視点」という語で「視座」を指すこととする。
- 2) 楊凱榮 1989 では、中国語についても日本漢字の字体が使われているが、本稿では例文についてはすべて簡体字に改めた。また、例文については、他の文献からの引用に際しても、体裁や例文番号を変更した。
- 3) 佐々木 2002 では、福州語と寧波語との比較のために、北京語としているが、中国語とほぼ同義で使っていると見られる。
- 4) 本稿執筆にあたり、早津恵美子氏には、刊行前の論文のご提供を受けた。ここに記してお礼申し上げる。
- 5) ここで「含みとして表す」としているのは、「使役文の主語や補語に恩恵の与え手あるいは受け手という性質が読みとれたとしても、それは使役文の文法的な意味とはいえない」（早津 2017:12）、「表現性として表している」（早津 2019）ことによる。
- 6) 引用が長くなる場合があるため、グロスは省略した。必要に応じてポイントになる語句について、() 内に直訳を示した。
- 7) 引用に際しては、引用元の呼び方に従った。
- 8) 3 節以降の例の分析では、X を使役者、Y を動作者と呼び、また Y（動作者）には下線を付した。
- 9) 「テヤル」には、「テアグル」などを含めた。同様に「テクレル」には、「テクダサイ」「テチョウダイ」「テ（私を連れてって。）」などを含め、「テモラウ」には、「テイタダク」などを含めた。
- 10) もとよりここで述べる基準は含まれる意味を読み取るためのものであり、一定の曖昧性を持つことは免れない。特に、動作者の願い出に基づく「許可」との線引きには揺れが生じる。
- 11) 早津 2017 は、「みちびきの使役文の中にも、動作主体の望まない動作を無理やり行わせることを表すものももちろんあり（「親が子供にきれいな物を無理やりたべさせる」「いやがるのに帽子をかぶらせる」）、そこでの主語（使役主体）は恩恵の与え手ではない。」（早津 2017:16）としているが、みちびきの使役文の定義と相いれないようにも思われる。きれいな物でも体によいからと動作主体の利益を図ることはありうるのではないだろうか。
- 12) この表に含めなかったものに、X（使役者）の位置に“誰（だれ）”が入るものが 5 例あった。いずれも日本語訳文において使役形は使われていない。うち 3 例を挙げる。

谁让姑娘们中间，确实有那种势利眼呢。

娘たちの中にはたしかに打算的な人間がいるんだからしかたがない。[丹 63]

谁让你用的是圆筷子。

丸いお箸を使うからだめなのよ、[丹 79]

谁叫我那天到北京图书馆去，

あの日、図書館になんかいったのが悪いんだ、[青 4240]

直訳では、「誰が動作者に～させたのか」となるが、「～からしかたがない」「～からだめ」「～のが悪い」などの意味を含むと見られる。

- 13) 「サセテヤル」「サセテクレル」「サセテモラウ」がここに含まれる筈だが、今回のデータでは、2 例が「サセテヤル」であった以外、他の 17 例はすべて「サセテクレル」であった。
- 14) X (使役者) と Y (動作者) は必ずしも引用箇所に見えていない場合もあるが、すべて前後の文脈などから補って決めた。
- 15) 残る 2 例を以下に示す。これらについては、「テモラウ」であり、動作者の受益を認めてもよいのではないか。

叫吴先生挑一挑换一换

吳先生にお気にいったのと、きがえていただき[青 1657]

让他们坐

みなにかけてもらう[青 2191]

- 16) これは、1.2.2 で見た木村・楊 2008 が指摘する通り、“給”が動詞的な性質を残していて、例えば“小红给小王看照片。(シャオホンが王君に写真を見(さ)せてやった)”のように使役に似た形式に使われる場合にも、まず使役者が授与行為(写真を差し出す)を行い、それを支えに被使役者(=動作者)の動作(写真を見る)が実現するという事態を述べるためであろう。
- 17) 小学館 2015 『日中辞典』第 3 版で「もらう」を引くと、以下のような例が挙げられている (p.1923)。
- | | |
|----------------|----------------------------|
| 医者に診てもらう | 让医生看病 (使役形) |
| 直接来てもらう | 让对方直接来 (使役形) |
| 喜んでもらえてうれしい | 您能喜欢我很高兴 (可能性を表す助動詞“能”を使用) |
| 中村さんに教えてもらったのよ | 是中村告诉我的呀 (中村さんを動作者として表現) |

参考文献

- 木村英樹 2000 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』第 247 号, pp.19-39, 日本中国語学会
- 木村英樹 2008 「第 3 章 北京語授与動詞“給”の文法化——<授与>と<結果>と<使役>の意味的連携——」生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一編『ヴォイスの対照研究 東アジア諸語からの視点』, pp.93-107, くろしお出版
- 木村英樹・楊凱榮 2008 「第 2 章 授与と受動の構文ネットワーク—中国語授与動詞の文法化に関する方言比較文法試論—」生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一編『ヴォイスの対照研究 東アジア諸語からの視点』, pp.65-91, くろしお出版
- 佐々木勲人 1997 「第 4 章 中国語における使役と受動の曖昧性」筑波大学現代言語学研究会編『ヴォイスに関する比較言語学的研究』, pp.133-160, 三修社
- 2002 「第 6 章 中国語における使役と受益——比較方言文法の観点から——」筑波大学現代言語学研究会編『事象と言語形式』, pp.177-197, 三修社
- 竹島毅 2012 「使役表現の教え方と日本語訳について」『日本語と中国語のヴォイス』, pp.82-99, 白帝社
- 早津恵美子 2016 『現代日本語の使役文』ひつじ書房
- 2017 「使役文にみられる恩恵授受性」『表現研究』106, pp.7-16, 表現学会
- 2019 近刊「日本語の授受文の表す恩恵授受性—使役文の表しうる恩恵授受性との関係—」『ユーラシア諸言語の多様性と動態』21, 掲載ページ未定, ユーラシア言語研究コンソーシアム
- 三宅登之 2007 「使役動詞と伝達動詞の接点」『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴—』, pp.345-370, 和泉書院
- 2013 「行為連鎖モデルから見た使役を表す兼語文のバリエーション」『東京外国語大学論集』第 87 号, p.83-100
- 楊凱榮 1989 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版

資料

北京日本学研究中心2003「中日対訳コーパス」
小学館2015『日中辞典』第3版